

伏美岳～ピパイロ

***** 健康に悪い強風 *****

福家 大三

伏美岳～ピパイロは毎年6月位に登るお馴染みのコースで、夏の沢登りに向けたトレーニング山行である。今回「強風」とは健康にも悪いことが分かった。

2015年5月24日

(6:10 発) 既に登山口駐車場には10台以上の車が停まっている。同じく今日山行予定である金澤さんの名を入山者名簿で探すが未だ登ってないようだ。

強風注意報が出ている割には麓は穏やかだ。登るにつれ徐々に雪が現れ Co1400 からはほぼ雪に覆われる。雪堤は Co1000 位から繋がっているのだがトレースも無いので、先行者の夏道沿いのトレースを辿る。

Co1600 で先行パーティに追いつく。皆ダブルストックで、今は厳冬期かと思間違えるような出で立ちで登っている。用心に越したことはないが、あれでは暑すぎるだろう。ストックなら私も1000円の安物ステッキを持っているが短いためピッケルのような使い方だ。それならピッケルを持って行けばと言われそうだが、この時期少々大げさすぎる。また雪も腐っており滑落するような斜面も無い。

Co1700 で樹林帯を抜けると、ここからが暴風域。風速15m～20mで何度も飛ばされそうになる。こういう時ダブルストックの連中は4本足だから強い。一人風にあおられヨロヨロしながら何とか伏美岳ピークに着く(8:15)。天気も良く眺めも素晴らしいのだが、この爆風のなか目を開けているのもやっつとで、すぐさま風下のハイマツ帯に逃げ込む。追っかけ素敵なお婦人が「こちら、よろしいですか?」と隣に。お約束の山頂一服は我慢する。

ピパイロに行くモチベーションもすっかり下がり帰ろうかなとも思ったが、偵察で伏美からピパイロへ続く稜線に目をやると、遠くに雪堤を歩く3人パーティが見え、さほど強風に耐えている様子でも無い。割と稜線は風が弱いのかもしれないとピパイロへ進むこととする。

さすがに山頂直下は強風だが、降りるにつれ徐々に風は弱まり風下である夏道から雪堤に移る。あとは重力にまかせてドタドタと降りる。途中先ほど見えた若者3人パーティが休憩しておりパスして先に進む。最低コルから先は雪がびっしりで、ここから約400m高度を上げなければならない。夏用スパッツは見映えが悪く履かなかつたのが災いしてキックステップの度に靴の中に雪が入りこむ。おかげでズボンも靴の中も濡れてしまって足が冷たい。

疲れも出てきて、そのうち若者パーティが追いつき先頭を交代してくれるであろうと期待しつつ度々振り返るが全然距離が縮まらない。結局そのままピークへ(10:30)。

伏美ほどではないが強風の中お約束の山頂一服をしていると若者パーティが到着する。しばし金澤さんが登ってくるであろうと期待しつつ稜線を眺めていたが、時間も押してきたので降りることとする。結局この日ピパイロを踏んだのは私と若者3人だけであった。

グリセードを交えながら最低コルまで一気に下り、ゼイゼイと伏美ピークに登り返すと朝と何ら変わらない暴風であった(13:50)。伏美ピークからは登りでは使わなかった雪堤を繋ぎながら下山する。

とうとう金澤さんとは会わず仕舞いであった。入山者名簿を見ると伏美岳だけ登ったようで既に下山していた(13:50 登山口)。

その後、金澤さんから「健康に悪いくらい強風なのでピパイロ止めた」とメールが届く。「健康に」???。「安全上」ではと思ったりしたが、後日この山行での脱水症状のせい、キックステップのせい、5年ぶりに足親指の痛風発作を起こし非常に辛い目であった。

やっぱり「健康に」悪かった。